『ごはんやさんでーす』　3歳児　　10月　伏見こども園

さら砂をつくれるようになったＡくん。前日の遊びの時間につくったさら砂をボウルに入れ、大切にとってありました。

翌日、Ａくんはそのボウルを運んできて、数人の友達と一緒に近くにあったドングリや木の葉を入れ、しゃもじでぐるぐると混ぜて遊んでいました。

「わぁ、素敵。これはなぁに？」と保育者が聞くと、Ｂくんが「ごはんやねん」と教えてくれました。

「ドングリが入ってるんやねぇ」と保育者が言うと、Ｂくんは「葉っぱも混ぜてん」と答え、Ａくんは、さら砂をつくって混ぜて見せてくれました。

保育者が「おいしそう」と声をかけると、「食べてください」と、ボウルのごはんを差し出してくれたＡくんに「あぁ、おいしいごはんでお腹いっぱい」と伝えると、子どもたちは満足そうな笑顔で顔を見合わせていました。すると、Ｂくん達が園庭の方へ、「ごはんやさんでーす」と言いながら嬉しそうに走っていきました。

子どもの育ちや学び





Ａくんがつくったさら砂と木の葉やドングリを混ぜてみようとする（興味・ワクワク）

友達や保育者と言葉を交わして遊ぶ（安心感・楽しい）

友達と一緒にごはんをつくる（楽しい・安心感）

友達の大切にしているものを自分も大切にしようとする（気持ちの芽生え）



保育者の思い

・保育室で色付いた落ち葉やドングリに触れる機会をもっていたこともあり、いろいろな遊びに使って遊んでほしいと思っていました。遊び場の近くに用意してあったことで、大切にしていたさら砂に混ぜてみようと思ったのかな？

・一緒に遊ぶことが増えてきていたＡくんとＢくん。友達を近くに感じながら安心感の中で一緒につくったごはんも大切にして遊んでいました。遊びをきっかけに、いろいろな友達と関わって遊ぶ姿が増えてきたように思います。

・3歳児にとって、落ち葉やドングリは、いつもの遊びがいつもより楽しくなるアイテムなのだなと思います。

・生活や遊びの中で、保育者だけではなく子ども同士で言葉を交わしている姿が増えてきました。友達の言葉やしていることにも目を向けて遊び始めているのだなと思います。

家庭だったら・・

季節の移り変わりが美しい時期になりました。拾った葉っぱを見て、ある子が「秋の色になってる」とつぶやきました。

子どもならではの表現をとても素敵だと感じ、「本当だね、秋の色だね」と受け止めると、ほかの子ども達も「秋の色」の葉っぱを見つけ始めました。

子どもたちが感じる「秋の色」は、一人一人違います。「秋の色はこの色」と決めつけず、それぞれが見つけた「秋の色」を楽しんでほしいと思います。